

協働事業評価書

事業名「和光市自然環境マップの作成」

事業主体：N P O 法人和光・緑と湧き水の会
担 当 課：環境課
評 価 者：協働推進懇話会（委員 7 名）
評 価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価 【◎○△】	評価内容	評価 【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 4 人 ○ 3 人 △ 0 人	事業スケジュール	◎ 3 人 ○ 4 人 △ 0 人	■適切な進捗で、成果も充分に出ている。 ■着実に事業スケジュールをこなし、充実した内容の自然環境マップを完成させることができた。市長、教育長出席のもとでお披露目できたことも良かった。 ■印刷後、地域の小学校への配布等、広報に努力が見られる。これまで会に蓄積された専門的な情報がマップを通して効果的に提供されている。 ■事業主体である団体の経過が土台としてあり、そこに行政と協働事業を行ったことにより、広域的な事業展開が計画的に行われた点が素晴らしいと感じる。 ■事業の目的は、多くの市民に和光市の自然の特徴を知ってもらい、その大切さを感じてもらえることができる媒体の作成であると思うが、成果物である「和光市自然環境マップ」は、和光市において自然に関する活動を長年に渡り続けてきた会ならではの、分かりやすく、それでいて詳細な内容となっている。 ■事業スケジュールは、連絡を密に取り合ったことにより予定よりも早く進めることができた。また、成果としては、指標を達成し、かつ、会が独自で増刷もしている。
		事業成果	◎ 3 人 ○ 4 人 △ 0 人	
②協働の評価	◎ 5 人 ○ 2 人 △ 0 人	プロセスの積み重ね	◎ 4 人 ○ 3 人 △ 0 人	■結果として市民側の負担が大きい事業になってしまっている。市民側のボランティアな貢献を引き出せている点は良いが、一方で過大な負担を押し付けていないか、という点については常に留意が必要である。 ■団体、担当課それぞれのコメントにあるように、団体だけでも、行政だけでも達成できなかった事業ができたことは、協働事業の醍醐味であったと言える。 団体的もつ熱意と専門性に基づく長年の活動の蓄積（2014年度の「和光市湧水環境調査報告書」など）を生かし、担当課と協働することで、和光市民にとって、また和光市のPRにとって有益な自然環境マップができたことは、他の協働事業にとってもモデルになり得る協働の成果と言える。 ■お互いに敬意をもって信頼関係を構築して進めることができた事業であると感じられた。市民団体の熱意があればこそ、と市が考えているということが先につながる事業となったのではないか。市民大学での活用も予定されている。 ■目的や課題に対し、長期的な視野をもって臨んでいたのではないかと資料・発表等から見受けられた。 ■事業の広がりや市民満足度の向上等については、今後の展開により大きく左右されるのではないかと考える。更なる周知・啓発、マップの活用を期待したい。 ■市が単独で今回の成果物と同様のものを作成することは困難であり、「和光市自然環境マップ」は、和光・緑と湧き水の会との協働事業だからこそ為し得た成果である。 ■協働事業実績報告書において、団体と市双方が肯定的な報告をしている。お互いに意見を出し合い、すり合わせ、双方納得のいく成果となっている。市民満足度については、客観的に判断できる資料がアンケートのみでかつ回答数が少ないことが残念だが、配布時の反応や配布済み数を鑑みると好評なのが伺える。
		事業の広がり	◎ 1 人 ○ 6 人 △ 0 人	
		市民満足度の向上	◎ 1 人 ○ 6 人 △ 0 人	
		協働基本原則	◎ 3 人 ○ 4 人 △ 0 人	
		協働の成果	◎ 5 人 ○ 2 人 △ 0 人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				■総じて好ましい協働が行われている。今後は、期待される事業規模に対して予算規模が適切か、予算規模が過小な場合、それを補うボランティアワークがどれくらいあるか、を意識して事業計画を策定する、といった視点が、事業の費用対効果を考えるうえで重要である。 ■今後の自然環境マップの活用については、様々な可能性がある。本事業に携わった団体や担当課が学校教育や社会教育などで活用するのはもちろん、健康づくり、ウォーキング、まち歩き、自然散策、観光などのテーマで、市内外を問わず様々な人や団体に利用されることを望む。 ■普段の生活環境の中で忘れ去られた自然環境を見直し、市民に知ってもらう活動は貴重である。既にこのマップは小学校や地域学習に役立てていることも確認できた。 【提案】 ■ウェブサイトでの効果的な情報提供等、ローコストで進めることのできた貴重な情報を活用できる工夫を今後さらに検討して欲しい。和光市のブランド力を上げる情報でもあるという側面から、市民だけでなく市外へのアピール等も行っていくことができれば良いと思う。 ■もっとアピール性のあるデザインのマップになると良かった。今、新しい団体の中で、デザイン力のある若い市民活動家等もいる。人材バンク等によりそのような力の集積ができると良い。 ■協働事業の予算を組むことについては、そのインパクトに応じて設定できるということになって行くのも良いのではないか。 ■更に周知ができるよう、図書館で展示してはどうか。 ■協働事業として、過去の事業からのつながりと未来の事業へのつながりが期待できる良い事業であると思う。成果物をどのように有効に活用していくのが今後の課題である。